



音楽の力で被災地に元気を届けるために 現地で復興応援コンサートを実施

大阪府遊技業協同組合 「大遊協 Presents 熊本地震復興応援」事業



大阪府遊技業協同組合
理事長
平川容志さん

選考理由

この部門での最優秀賞には、前年度に引き続き大阪府遊技業協同組合の卓越した社会貢献活動が選定された。活動の中心は、2016年4月に発生した「熊本地震」の被災者への物心両面の復興支援である。甚大な被害を受けた益城町の文化会館ではShionによる復興応援コンサートを実施。これに小中学生を招待。また、中学校の吹奏楽部との合同演奏も組み入れ被災した子どもたちを元気づけた。さらに、大阪日本橋でのストリートフェスタでは、「がんばろう熊本」を標語に熊本物産展などを実施。売上金は義援金として寄付された。これらの活動には、組合員がボランティア参加していることも評価に値する。毎年の優れた社会貢献活動に心からの敬意を表したい。

社会貢献活動審査委員会
委員
野口 昇氏



2017年のファン感謝デーのテーマに 熊本地震復興支援を掲げて被災地支援

2016年4月に発生し、気象庁震度階級では最も大きい震度7を2回も観測した「熊本地震」。関連死を含め、約270名の方々が亡くなり、今なお仮設住宅等での生活を余儀なくされている人々がいる。復旧・復興に向け、遊技業界でも地震直後から様々な形での支援に取り組んでいるが、大阪府遊技業協同組合（以下、大遊協）では昨年、「大遊協 Presents 熊本地震復興応援」と銘打った支援事業を実施した。

大遊協副理事長の田中孝明さんは、その根本にあった思いを、「1995年1月に起きた阪神・淡路大震災を経験したことが大きい。被災地の過酷な状況を肌で実感しているため、組合員の間にも何とか現地の人々を支援したいという思いが強い。東日本大震災の復興支援事業を行ったときもそうでしたが、阪神・淡路大震災で支援していただいた恩返しという意味も込めて、今回の事業に取り組むことになりました」と話す。

この事業は、特に甚大な被害となった熊本県益城町を対象に、地域の未来を担う小・中学生や仮設住宅などに入居している被災住民の人々に、「音楽の力で『心のケア』と『元気を届ける』ことを目的」（大遊協、業務第二課課長・小川清さん）にしたもので、大阪を拠点に活動するプロの交響吹奏楽団「Osaka Shion Wind Orchestra（通称、Shion）」と益城町立木山中学校吹奏楽部による「大遊協



「大遊協 Presents 復興応援コンサート」を告知するポスター



コンサートには無料招待された小・中学生、一般客が数多く来場



「第13回日本橋ストリートフェスタ2017」では熊本県の物産展や写真展を開催し、売上金を寄付

Presents 復興応援コンサート」（後援：熊本県遊技業協同組合、益城町教育委員会）、および同楽団員による町立広安西小学校と益城中学校での楽器演奏指導会、さらに益城中学校と木山中学校への卓球マシンと卓球玉の贈呈を行った。

子どもたちに貴重な経験を届ける 楽器演奏指導会や物産展を実施

復興応援としてコンサートや楽器演奏指導会が選ばれたのは、元々、益城町が吹奏楽活動が盛んな土地であるという地域特性に着目したためだ。昨年3月29日に益城町文化会館で開催されたコンサートには、無料招待された小・中学生、一般客を合わせて約300名が足を運び、吹奏楽の有名曲からディズニーのメドレーまで10曲以上の演奏を楽しんだ。プロとの合同演奏に参加した中学生からは、「貴重な経験をさせていただきました」「この経験をこれからは生かして頑張ります」といった声が多く寄せられた。

さらに、子どもたちに大好評だったのは、翌日に行われた小学校と中学校での楽器演奏指導会で、これは楽器の各パート毎に、楽団員から指導を受けるというもので、「プロの方に教えてもらうことができて本当にうれしかった」「基礎がいかに大切かが分かった」と、感動や感謝の声が寄せられた。吹奏楽に励む子どもたちにとっては、プロの演奏家からレッスンを受けるということは、「テニスなら錦織、サッカーなら本田、野球なら大谷から教えてもらうようなもので、見ていて感動ぶりが伝わってきました」と、大遊協の田中さんは話す。

また、大遊協では、「ファン感謝デー」（3月24～26日）前の19日に開かれた「第13回日本橋ストリートフェスタ2017」に参加し、トマト、イチゴ、お米などの熊本県の物産展や写真展を開催し、その売上金を熊本県に義援金として寄付したほか、熊本県からマーチングバンドFIRE STATEを招き、フェスタのパレードに参加したり、前述のShionメンバーとのステージ合奏などを実施した。